



失業率悪化 3.1%

10月 3年5カ月ぶり高水準

総務省が1日発表した労働力調査によると、10月の完全失業率（季節調整値）は、前月比0・1ポイント上昇の3・1%でした。2カ月ぶりの悪化で、2017年5月以来3年5カ月ぶりの水準に上昇しました。新型コロナウイルスの感染拡大による経済低迷が続く中、失業者の増加が止まらない状況です。

一方、厚生労働省が同日発表した10月の有効求人倍率は、前月比0・01ポイント上昇の1・04倍で、小幅ながら19年4月以来1年6カ月ぶりに改善しました。

労働力調査によると、完全失業者数は16年4月以来の高水準となりました。前月比8万人増の214万人で、今年1月からは50万人増えました。内訳を見ると、自己都合の離職が9万人増の83万人と最も多く、雇用契約の満了や解雇を含む「非自発的な離職」も4万人増の69万人でした。休業者数（原数値）は170万人。職場に復帰した

率（同）は、前月比0・01ポイント上昇の1・04倍で、小幅ながら19年4月以来1年6カ月ぶりに改善しました。

求職者1人当たりの求人数を示す有効求人倍率はわずかに改善。春以降落ち込んだ企業の求人数が回復傾向にあり、有効求人倍率（季節調整値）は前月比2・2%増となりました。新型コロナウイルスで延期した工事の再開に伴う建設業の求人の回復が早いといえます。

ただ、11月以降は感染が再拡大しており、厚生労働省の担当者は「今後の動向は不透明だ」と話しています。